

光市としては、公衆トイレの洋式を進めている部分がございますので、参考にしたいと思
います。あとは、SNS の発信により観光客を集めるというご提案でございますが、こうい
ったことも日光市としては、今後も進めていきたいところでございます。さきほど他の班
のご発表でもありましたとおり、日光市の昨年の観光客の数は、市全体で約 1200 万人で
ございます。そのうち足尾への観光客数は約 17 万人ということで、全体の約 1.4%ぐらい
という数字でございます。今後も、足尾の方に、観光客の方々に足を運んでいただけるよう
に、宇大の留学生の皆様にも、今回 SNS という話も出ましたので、SNS で足尾の魅力を発
信していただいて、世界から足尾に足を運んでいただけるようにぜひご協力いただけたら
と思います。さきほど B 班の方で、足尾は楽しいとか、ご飯が美味しいとか、良かったよ
という話もございましたので、ぜひそういったところを発信していただけたらと思いま
すので、その辺もおねがいし、私の締めとさせていただきます。今後とも、ご協
力をよろしく願います。ありがとうございました。

質疑応答

参加者 A

すみません。着席したままで失礼します。日光国際協力協会の会員で芦野と申します。
みなさんの取り組みには毎年参加させていただいて、この会が最初は留学生がこういった
形に慣れる、ということがあったと思うんですが、一つの質の非常に高い、学問的な内容
に変わってきたなということを感じました。それと一つ提案させていただきます。

私、日光市のボランティア団体にも入ってまして、昨日の夜 5 時から 7 時くらいまで
話をする機会があったので、今日こういったシンポジウムがあるんだということ話を
したら、いくつかそちらでも提案を頂戴しました。まずは、掛水倶楽部をそのまま保存し
て観光客に 400 円で見せるということだけではなくて、江戸村の再現した村がありま
すけれど、それと同じようななにか鹿鳴館ではありませんが、明治から昭和にかけてのな
にか風俗、そのようなものを再現するような役者さんなりそれなら市役所の職員なりがお客
さんをお出迎えするようななにか動きのある楽しいところをできるように古河にかけあ
てみたらどうだろうか、という提案がひとつありました。あとそれから、これは日光のあ
るパンフレットなんですけれど、これは平成 16 年に私が埼玉にある銀行でこのようなもの
が飾られたのでいただいてきたものです。これは世界遺産ということで東照宮などしか出
ていないんですが、こういったもののなかにもどこが発行しているかという日光市観光部
観光振興課ということで、ちゃんと URL も入っていますが、こういったところに足尾のこ
とも近代化を支えた足尾ということを付け加えてもいいのかな、と思います。宣伝の部分
です。というのも思いました。以上の二点です。ありがとうございました。

参加者 B

森びとプロジェクト委員会の橋倉と申します。足尾で植樹活動の活動を展開しておりま

す。今日、本当に発表していただいた学生の皆さんお疲れ様でした。大変参考になりました。そして、山田さん、高橋さんの講演も、もっと時間があればもっと聞いてみたいと思いました。今日提言があったことに対する私の感想をお話しします。私たちは足尾で植樹活動をして温暖化を防ごうということで出発をしました。一番の目的というのは山に木を植えるということもありますけれども、それ以上に心に木を植えるということです。若いみなさんも含めてそういう木を植えていく、環境を改善していくことの大切さを勉強していただくこと、そういう感動を足尾に来て持って帰ってもらおうということを目的にやってきました。そんなことがひとつ、大事なことと思っています。具体的な提言では、木を植えることについてカップルに記念の植樹をしていただこう、だとか、親子で来て植樹をしていただこう、私もずっとこういう風に思っていました。ですから誰が植えたか、私たちが植えた木であることを名札を立てるとかちょっとした看板を自然のものを使ってつくるだとか、私たちが植えた木に、また来年も行ってみよう、草取りに行ってみよう、そして10年後大きくなった姿を見たいねと、そういう気持ちを作り出せるような形でやっていけばいいかなと、私も思っております。それと、あとは足尾の町の皆さんがどれだけみなさんの提言を受けて自分たちがなんとかしようという形をつくりだす、そういうことが一番大事なのかなと思っています。そういう面で山田さんなども日常、いろいろ交流があるんですけども、そのことが大事かなと思います。そして足尾の人たちは足尾の良さというのをあまり感じていない、ということが一つあります。足尾の中倉山、わたし達が作業している山の向かいの山ですけども、煙害の中でも生き残ったブナが1本山の上に立ってるんですけどもね。片方は松木溪谷沿いで、岩だらけの禿山の斜面なんですが、その反対側は本当に緑の綺麗な山、あそこへのぼると足尾の負の遺産をほんと目の当たりにできる、そんな場所なんですね。その紹介をブログでしましたら、大勢の登山客が見えるようになりました。そのことがいいのか悪いのかという判断もあるんですが、そんなことがありました。ぜひ、これからも若い学生の皆さんに、いろいろな発信をしていただいて、足尾を活性化できれば、私もその一助になりたいなと、思っています。ありがとうございました。

参加者 C

まずは率直に、ひとりの県民として、世界各国から留学生の皆様方から県の足尾についての発表、ご提言をいただきましてまことに県民の一人としてありがとうございます。

改めまして、宇都宮大学関係のみなさまに御礼申し上げます。と同時に、これは逆にいうと私たち日本人、県民としてこの足尾を伝えていく覚悟と言いますか、世界的視野から見た足尾を私たち自身があえて負の遺産を世界に向けて発信していかなければならない覚悟が求められている段階なのかなと思いました。それとこれはちょっと国内的な視点なんですけど、やはり足尾と言いますと地形柄やはり群馬県が隣接しております。そしてもっと視点を広げてですね、桐生とか、あっちのほうの両毛地域というのでしょうか、あちら

のほうの皆様方、エリアも組み込んだご考査みたいな政策等ございましたらお願いしたいと思えます。

山田功様コメント

本当にありがとうございました。フィールドワークから今日のシンポジウムまで、国際交流協会として留学生の事業に関わらせていただきありがとうございました。さきほど芦野さんもおっしゃられていましたけれど、熱心で充実した事業になったと感じました。私としても足尾銅山という負の印象が強い地域でありましたので、みなさんにとって理解をし難い内容が多くて、考察が難しいのかなと不安もありましたが、これほどたくさんの提言をいただけたこと、私の方からも感謝申し上げます。また機会がありましたら、足尾の情報発信をお願いしたいとおもいます。私がなかなかできていないことを反省しつつ、お会いできることを楽しみにしております。本日は本当にありがとうございました。

高橋若菜先生コメント

留学生の皆さんのとても素敵な提言を聞かせていただきましてありがとうございます。みなさんがこの提言ができたのも、やはり日光市の方や足尾の方に支えられたおかげだと思います。お話をお聞きし、いくつか印象に残ったことがありました。ガーナから来た方が英語でおっしゃったことです。自分の国にも鉱山があると。そこで、足尾の環境破壊と再生の経験を共有したいと。本日講演でも申し上げました通り、足尾再生のストーリーは、生態系の再生への試みであると同時に、人間の尊厳の回復でもあります。歴史から教訓を学ぶこと、それは先ほどの方もおっしゃられた通り、覚悟がいることだと思います。

観光振興計画についての提言も興味深く伺いました。Uberのご提案、さすが、若者だなあという風に思いました。海外ではUberに似た取り組みというのめたくさんあります。例えば中国に行くと中国の学生さんがWeChatをつかってタクシーではなく中国版のUberを呼んでくださったこともあります。実はこういった取り組みというのは各国であるので、むしろ留学生のみなさんのほうが慣れておられると思うんですね。

海外の人にもう当たり前でとってもわかりやすい、逆に日本の方ではなかなか取り入れられていない部分で、なかなかユニークな提案があること、大変興味深く感じました。他にも、アニメとかハッシュタグ、お祭りマラソン、多岐にわたるご提案、良かったと思えます。

一方、私が感じたのは他のいわゆる観光地と同じレベルでものすごく質の高いおもてなし的なものが足尾に必要なのだろうかということでもあるんです。もちろん、綺麗なトイレがあつてすばらしい宿泊施設があつて、いつでも開いている食堂があつて、そういうのがあると便利かもしれない。ですけれど実は私 11 日に行った時に一つハプニングがあり、これが素敵なエピソードなので皆様に共有させていただきたいのです。今回参加してくださった留学生の中には豚肉が食べられない留学生さんがおられます。その学生さんのお弁

当を実は私たち用意できていなかったんですね。そうして、ご自分たちの方でご用意していただくということになっていたんですが、それもちゃんと情報伝達が伝わってなくて、お二人のお弁当がないという状況だったんです。

どうしようということで、以前来た時にコンビニが一つあったことを思い出し、あそこで買えるんじゃないか、と思ひまして山田さんにお伺いしたら、山田さんは「いやあそこは今日しまっている、今日旅行に行くって言っていた」と。そして今空いている食堂、今日はあそこは空いてるからと連絡してくださいました。すごいですよね、このコミュニティ。なんでしょう本当に私感動しました。

そして留学生の方が食べられない豚とかそういったもの避けて、オーダーメイドです。そのような対応をして下さりました。お弁当が足りなかったのは、実は本学の失態なんですけども、それを受けて包摂してくださった方、すばらしいなど。そういう温かさを、ぜひ引き継いでいただきたいなという風に思っております。

こういった温かさというのは、さきほどご報告いただいた木を植えるということとも通じると思っています。学生の皆さんと橋倉さんが、非常に素敵なお言葉を残して下さいました。木を植えるということというのは心を植えるということなんですね。

実はこういったことを国際的にも言っている人がいます。1980年代、インドで開発が進み巨大ダムを作るために、地域でどんどん木が伐採され、生態系が崩壊していきました。そういう状況をなんとかくいとめようとして、チプロ運動が起きました。チプロというのは、抱きしめるという意味なんです。切られる前に抱きしめる。この抱きしめるという行為は愛情そのものだと、インドの環境学者ヴァンダナ・シヴァが言っています。それをまさに彷彿させるようなお話であったと思います。

木を植えるというのはその活動そのものだけでなく、その心を守るし、生態系・温暖化にすべてつながっている。ところで、そのチプロ運動のヴァンダナ・シヴァは、木がたくさん植わっている森林というのは単なる木の塊でもない、山というのは単なる岩の塊でもない、その下に水源があるんだと。これは水の塊でもある。これを全部包摂した生態系の中で人は育まれているんだと言っています。

そうした恵み豊かな生態系を崩壊させ、ある意味で全てなくなってしまった死の山だった足尾地域をここまで再生させた、その様々な取り組みに心から感動を覚え尊敬の念を持っております。そして、再生のためには、いままだ残っている負の遺産というのを引き継いでいくというためには、巨額の資金が引き続き必要になってくることも確認しておきたいと思います。こういった負の遺産というものを包み隠さず、世界の同じような問題を抱えている方々と共有していくということも重要だと思ひました。

長くなりましたが以上です。ありがとうございました。

参加者 D

私は、足尾が大好きで、通いつけている人間です。足尾の観光振興のため、本日の学生

さんたちの発表には、宝のような大事なことがたくさん含まれていたと思います。敬意を表します。そこでこれは質問ではなくお願いです。もしも今後ともこのような実踏とヒアリング調査をされるならば、ぜひ、古河へのヒアリングをされたらどうかと思いました。古河が、学生のみなさんたちにどのように答えるか、とても興味があります。

参加者 E

今日は皆様のプレゼンテーションありがとうございました。高橋先生、山田さん、本当にみなさんが足尾を愛してくださって、足尾のためにこれほど素晴らしいプレゼン、本当に感動いたしました。質問を二つ。足尾のコロケを食べた方、いらっしゃいますか。

あ、まだいらっしゃらないんですね、あ、時間がなかった。では足尾のあんこ玉を食べた方。あ、まだいらっしゃらない。是非次回は美味し物のリストに加えていただきたいと思います。あ、いらっしゃいましたか。先生ありがとうございます。

私も実は東京生まれでこちらにきて、日光大好きな人間なんです。けれども、足のことでですね。移動サービスについてとか、日光市は大変広いので移動手段をみなさんが提案していただいたものはぜひ栃木県が出しているガイドラインに足尾も含めて日光市の市民の方の足を守るということを提案していただいて。どうしてもボランティアで賄っていかなければならない時代になってしまいましたが、ぜひその時ご意見を聞くことがあるかもしれませんので皆様がぜひ肌で感じたこと、ご自分の足で歩いて知っていただいたことを、私たち栃木県、日光市のためにまたご意見をいただきたいと思います。私は杉並区で生まれたんですけども、スモッグがあって、ポリューションの問題は、日本がもう体験しているんだったら、世界がこれを知っていてくれれば、温暖化も戦争とかお金じゃなくて、私たちが地球を守っていかなければならない、足尾から世界へ、日光から世界へ、ぜひこれからもみなさんの将来とともにある日光市になると思いました。ありがとうございます。
